

神戸経済大学校歌 商 神

しょうしん あやなす つばさをあげて
れいじょう はるかに ひがしをさせば
くしきこのみは くもまをもちて
あきつーしまねに おつとぞみえしと
こーろはここぞきくすいかおるみ
なとがわらのちかきほとりに
かくつたわりしあめのさとしも
ひとはさとらで *rit* いくとせかへぬ

神戸経済大学校歌 商 神

1. 商神彩なす翅をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つと老見えし
所はここぞ菊水かふる
濑河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
靈果いかで地に朽つべき
豊榮のほる朝日のかげに
八州の外の潮風吹きて
いつしか渾ず気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り亘る山ぶところに
秋の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかい
朝妙なる琴のひびきは
鞍馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえず清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葦合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は凍たる後に嵐
奔馬空行く鸞示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起しむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
榮い得たるうつ勁の意気
抱負を語れや干余のおのこ
6. 金秋無欠の三千余年
かどやく光は剛の蒼
心はまなじ大和男子の
我等は牙を執って起らん
日出ずる旗を高くかざして
日入らぬ国と手を携えて
目ざす平和の戦の場に
匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞどねぐら離れて
野に立出する蒼鷹幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつけさを逞れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶搖万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

恨みは深し

喜楽山人

夏になると、テレビにきれいな海の風景や、プールで楽しく泳いでいる実況が写し出される。ある奥さんが、毎日近くのプールで泳いでいるのよと言った。私の家の近くには、プールがない。その度に羨しいなァと思う。昔は、松は緑に砂白い海岸が至るところにあった。御影の浜でも泳げた。家内は藤井先生の千鳥会で、朝五時におきて海へ通った。テレビを見ながら家内と、あの頃なら今からでも泳ぎに行けるのになァと、嘆息をもらした。その度に私はむかつくのである。海を戻せ！とさげびたくなるのである。われに海を与えよ、然らずんば死を与えよと言えば、いささかオーバーになるけれども、これが今日この頃、猛暑三十四度のなかの、私のいつわらざる心境である。私が四年前、遠い広島へ通うことにきめたのも、広島ではまだ海で泳げますよと誘惑されたからでもあった。ところが私が広島へ行った途端、翌年から海で泳げなくなってしまった。それならそうと最初から、と言いたい位である。

昨年の夏、ゼミの学生が、私の腹ふくくる思いを察してか、山陰の荒磯というところへ、合宿ゼミだといってつれて行ってくれ

た。

私は感激のるつぽにほろり込まれた。あった！あった！海があった。日本に海があったのである。文字通り私は日本をデイスカパーした。白砂、青松、広い砂浜には塵一本もない。のみたいほど水はきれいだ。魚の泳いでいるのがまる見えである。私は学生たちと一緒に、一日中ぶっ通して存分に泳いだ。学生の方が、はだがヒリヒリすると情ないことを言い出したので、引きあげたようなことである。

ここが知れたら、またたく間に海でなくなるであろうから、誰にも知らしたくない。それにしても海らしきものが至るところにあるのに、海がないとはどうしたことか。（七月二十八日記）

凌泳例会への参加を乞う

ここ数年、凌泳会の年間スケジュールは、五月の総会に始まり七月の市大戦、八月の旧三商大戦を挟んでの各種対抗戦、選手権試合九月の月見宴、十月から翌年四月までの毎月第二土曜のオフシーズン例会、正月第二土曜の初泳ぎと、ほぼ定例化しています。日此プールから足の遠のきがちな会員諸氏に少しでも水に触れる機会を、と考えスケジュールを定例化し幹事も万障繰り合わせ会場に出向く様にしております。

少くとも在京阪神、明石、姫路地区の会員の方々はこのことをよく御承知の事と思います。この三、四年を振り返ってみまして、總會、月見宴、初泳ぎ、を除きあまりにも会員の皆様の出席が少ないのを嘆かずにはられません。

神戸広島間を週二回往復され他に講演、学会と、古希を越えて活躍されている古林先生、山科から遠路はるばるおいで下さる山田常雄様、御病氣勝ちの身体をおして顔を出して下さる村上秀道様、また神戸に帰って来たからと早速プールに出て来られた前田寿様、凌泳例会出席率最高で何かと御世話をして下さる石井義章様、そして若手の何人か、それぞれ多忙な中を都合をつけて出席して頂いています。(神戸近辺に在住の会員諸氏に御願ひします) 毎回出席を、とは申しません。せめて年に数回は顔を出して頂ければ幹事も執われましよう。

現役諸君も頑張っています。会員諸氏が書けて現役であった時を思い出して下さい。

六甲のプールが諸氏に何を与えてくれたかを今一度振り返ってみて下さい。

励ましと経済的な援助をどうか彼等に与えてやって下さい。六甲のプールに触れてやって下さい。伝統の市大戦、旧三商大戦でも神戸のOBはあまりにも寂しい状態です。大阪、東京共に盛大な応援、懇親会の席でのOB勢の圧倒と、現役の健闘とは逆に神戸は小さくなっている事が多くなりました。

会員総数は二百五十名を超えました。来たるべきシーズンでは一人でも多くの会員と御会い出来る事を期待してやみません。左記に凌泳会年間基本スケジュールを掲げますので出来るだけ都合をつけて御出席下さい。

初泳ぎ 一月

總會 五月

市大戦 七月

旧三商大戦 八月

他對抗戦等 六月〜九月

月見の宴 九月十五日

オフシーズン例会(神戸製鋼健保プール)

毎月第二土曜 十五時〜十八時

阪神電鉄「新在家」下車、南西徒歩十分。

受付にて凌泳会員の旨、挙げて凌泳会記名簿に氏名を記入、所定申込書に料金二百円を添えて出して下さい。家族同伴可。時間内に自由参加、自由解散としております。(幹事記)

またまた秋がやってきた

水泳部学生後援会々長 家 本 博 一

水泳部、遂にソフトボール部にヘンシニング

——これほど、秋の水泳部にふさわしい呼名は他にない。昭和四十九年度学内ソフトボール大会において、堂々初優勝の栄誉に輝やいたわが水泳部は、今や名実共に「秋季ソフトボール部」として体育会内部だけでなく、広く学内ソフトボール愛好者の憧憬の的である。出場一三六チームを数えた昨秋の大会では、七回戦を戦い抜かなければならず、その体力は言うまでもなく、その精神力、チームワークの強さで絶対のものが要求されたのである。私自身、水泳部チームの一員としてソフトボール大会に出場するのは四回目であったが、昨秋チームほど、その体力、精神力の両面においてずば抜けていたチームは他に類をみない。わが水泳部々員のすばらしさに脱帽した。

〈優勝メンバー紹介〉

一番・佐藤弘之（中堅手）

打走守三拍子そろったリードオフマン

二番・大林良和（捕手）

一見鈍感だが、意外性に豊んだ名捕手

三番・家本博一（左翼手）

私情が混じるゆえ、論評は差し控える

四番・中西康之（遊撃手）

打率・打点・本塁打数一位の三冠王

五番・上田敏彦（一塁手）主将

内野守備陣のカナメで一発屋のオッサン

六番・植西 勝（二塁手）

練習せずとも打てる頼れるオジサン

七番・瓜生誠二郎（右翼手）副将

年々実力低下の頭しい不思議なレギュラー

八番・天野孝司（投手）

失点二、防衛率〇・二つ最優秀投手

九番・大曲芳郎（三塁手）

冷静な判断と適格な守備を誇る名三塁手

補欠・北川敏行（投手）

ボールスピード大会屈指の好投手

補欠・松山玄彦（右翼手）

しぶとい打法の持ち主だがチョンボ多し

補欠・小林正文（三塁手）

努力一節で目下実力上昇中のメンバー

補欠・横上明夫（捕手）

ガッツ抜群の好リードオフマン

補欠・平石 康（右翼手）

はちまき校での期待されるメンバー

補欠・酒井正人（一塁手）

練習熱心な根性の持ち主

補欠・後藤信人（遊撃手）

ベンチで声援を続けた藤のファイター

補欠・塩浜英二（二塁手）

足腰の強さをもつ期待されるメンバー

補欠・高木史子（救急班および昼食係）

フミちゃん突えばチームの勝利

補欠・栗野正子（救急班および昼食係）

男性選手激励のインサイドマネージャー

昨秋の大会において最も苦しい試合は準決勝戦（一〇）であった。相手チームは、私自身高校時代在籍していた六甲学院野球部OBチームであり、野球経験者の強さに試合中危ない場面が多かった。五回表の一点を守りきったのであるが、九回裏二死二・三塁の場面ではチームの大多数がサヨナラ負けを予想したに違いない。しかし勝利の女神はわが水泳部を見捨てはせず、中堅手への大飛球を佐藤君が好走よく捕え、チームを勝利に導いた。私は、この場面でのチームメートの精神力の強さ、絶対負けてなるものかという不屈の勝負心に心から拍手を送った。このときこそ、後援会の生き甲斐を感じるときであった。ありがとう……。

今秋十一月の大会では、追われる立場に立ってV二を目指すわけであるが、昨年築きあげた互いの信頼感をもとに、尚一層の練習・研究を重ね、是非優勝をこの手に握りたい。どうか先輩諸氏におかれても、尚一層の御声援をお願い申し上げます。

続 紛争を知らない学生たち

T 24 川 本 典 子

二十三回生が卒業してしまわれた今、水泳師は本当に紛争を知らない学生だけになってしまった。去年、何色にも染まらず、何色をも呈していないかに見えた大学きんばすも、昭和五十年の始まりとともに新たな色を呈しつつあるようだ。多くの意味で、今年はや曲点に値する年であるのかも知れない。新しくある方向へ動き出した大学の中で、これは私が四年間を通じて常に意識し続けてきた事だが、水泳部と言う世界だけは、まるでそうした動きとは無関係な世界であるように思える。

しかし思うに、私にそう思わしめるのは、あのどう見ても一九七五年を想像する事のできないような「あんちいくなぶうる」の所以かも知れない。が、ぶうるに集う人々の顔を見ても服装を見ても、どう見ても一九七五年を感じさせない代物が多く、私の目からは紛争色を帯びて見えたりもする。いんすたんとらあめんとまんが本をかかえてかび臭い校舎に籠城を続けた頼もしい先輩の、決して美しくもなく清潔でもない学生の匂を、ぶうるや水泳部は持っているようだ。

来年、私達二十四回生が卒業してしまえば、こうして大学の過

去に思いを廻らす学生もいなくなってしまう事だろう。それでもきつと、ぶうるに近づくにつれ、別世界の雰囲気を感じない事は将来無いように思える。

もし、ぶうると学生とが不均衡に見えたら、その時こそ私は年をとったなあと感じるにちがいない。

足 搔

私はまだ少女なのかな？

重い。良心の呵責？

この重さは、自由な飛翔を妨げる桎梏なのか。

それとも、小舟を嵐の海から守る碇なのか。

わからない。

重い。確かに重い。

自由な個であることは、救いようのない孤であることなのか。

わからない。

なんて言ったりなんかして……………

重さから解放される方策

水に飛び込み、浮力という *Messiah* に縋ること。

よしなしごと パートII

脇 捻 転

よくある事なんです。何もかもが、うまくいなくなつて、ひどく自分が情けなくなることが。誰にだつてあると思ひ込んで。それでもって、そんな日は、いくら天気がよくっても、気分がすぐれないのは当然の理でありまして、今日がその日だったのです。こんな日は、朝、家を出る時からいやいやな気分がして、「ひょっとしたら……」なんて思うのです。そして、そんな予感に殆ど「当たり前ノ」なのです。ホンの少しのことがとても気になるボクの場合、今朝、友達との待ち合わせに、彼が約一時間遅れてきたことに源を發していたのかもしれませんが。おかげで、「今日こそは四時間とも講義にでるぞ」と、久しぶりにそろえた教科書、ノートの類を、彼が来た時には、もう非常に重たく感じ、誘われるままモーニングサービスのある店に足をむけることになってしまったのです。あゝあ、今日も無駄にすごしてしまったのかな……

自分自身の考え方もって、その人の世界をもつことは、いいことでしょうね。でも、その世界にとじこめるのは、たいがいにしてほしいんです。人にやさしく接して欲しいんです。「やさしさ」とは何だ、とかいったのは深く考えないで、ただやさしくい

て欲しいと思います。十人十色だし、その人によって自分の人生観なんかもあると思うし、自分なりの「やさしさ」の定義みたいなものもあると思う。こうなってしまうと、全く各自の世界になっ
てしまいうわけで、他人には本当に入ることができないんだけど、
時にその世界が他人のほくにも見える時があるわけ。そうすると、
その人がどんなにきれいな人でも、いやになる時があるし、その
反対もあって、そういった事が最近、やたらとあったりして、当
然の結果ながら、本人自己批判。目下、なるだけ、あらがでない
ように、日夜努力しておるのですが、隠しきれないところもいっ
ぱいあったりして……もう大変。

近頃、全く生活が変わってしまったりして。以前もそうだった
けど、ほくの場合、一日に一時間はレコードで音をきいてないと、
翌朝講義にでる気がしないってなもんで、今も、リングダールンシ
ュタットなんか聴きながらなんだけど、この一か月は全くひどい
もので、音だらけなんです。好きな音をきくと、自然とお尻をふ
りだしたりする変なくせもついたりして……。本当、麻雀どころ
ではないのですぞ、丸末氏。

水泳部に入って三年目。同学年のメンバーも若干変更はあつて
も、昔の顔のまま、みんな、本当に特異な人種で、とまどうこと
もあつたけど、今までなんとかきたみたい。ほくも麻雀やって初
めて偉さのわかったM氏。確か前のシーズンは仲良くほくと泳い
でいたのに、今シーズン頭しか見せてくれなくなつたK氏。今シ

ーズンほくを肉体的に苦しめた、我が水泳部一の美男子（とほく
は信じる）のS氏。これまた精神面で苦しめた、足親指伊達包帯
万年見学者のI氏。なんていったらいいのだろう。甲南大生風の
顔に、北ノ湖の腹、そして大受のお尻をもち、胸にカビをはやし
たN関。彼女達だからこそ、女らしさとやさしさが光を放つY嬢
とH嬢。来期も頑張ろうねえ。

妄想ではない実感

神の前に罪深き者

全く水泳には関係のないことですが、私は素晴らしいことを発見
しました。それは、人間自身では動かしがたい、漠然とした絶対
的な力の存在です。みなさんは、人間は自分自身で自ら存在して
いるとお思いですか、何かに存在させられているとお思いですか、
前者だと思いがちですが、実は後者なのです。その理由に自分の
体をとってみても、心臓よしまれ、と言っても止まりません、
また止まりそうになつたのを動けといっても動きません。また人
間はいつ死が訪れるかわからないのです。明日かも、知れませんが
今日かも知れません。何かによって生かされているという感じが
しませんでしょうか。唯物論の考え方からいくと、人間は単なる
物質の固まりということになります。しかし人間は、生きる。こ

とに不可解なまでに執着し、死を恐れます。唯物論では、生きる。

ことは物質の一つの状態でありまして、死ぬとはその状態が、変化するにすぎないのです。死んでもその直後の肉体と直前の肉体には、ほとんど差がありません。こう考えてみるとこの異常なまでの生への執着は、物質以外の何物かの働きによるものだと考える以外に仕方ありません。現在の物理学、化学においても、物質の根源は未だ、はっきり説明されておりません、物質の究極的な根源には、ある物質を存在させようとしている目的を持ったそんなエネルギーが働いているといわれています。この他唯物論的な考え方では説明しえない問題が、数多くあります。

聖書の中には、現在のことを予言している過所が幾つかあります、そしてそれはほとんどの中してあります。聖書の解釈は色々ありますが、その背景に流れる一貫したものがあのように思っています。本当に今から二〇〇〇年も以前に書かれた書物とは思えません。やはり背後の偉大な力を認めざるを得ません。

また歴史にしても、全く同形態をくり返していますし、またある一定の方向性、目的性をもって動いていることがわかります。偶然に生み出されたものではないのです。この点に關しても、何物かの偉大な力を認めざるを得ません。

宗教家は、これを「神」と置きます。この偉大な力が神であるうとなかろうと存在することは確かです。我々は、今までぼかさず、知らなかつただけなのです。

宗教に偏見をもっている人が、かなりいるようですけれど、宗教は、より人間の本心が求めてきた方向なのです。アインシュタインも、宗教のない科学は不具。だと、宗教と科学は本来、統一されるべきものだったと主張しています。歴史に残る偉大な文学者、科学者、音楽家などは、ほとんどクリスチャンでした。ニュートンにしても、りんごが木から落ちるのを見て万有引力を発見したといわれますが全て、ちよっとしたヒラメキ、インスピレーションが大切なのです。

現在の社会を見てなんと心の素漠とした人間の多いことか、物質文明が極度に発展したけれども、親が子を殺し、子が親を殺すポルノの濫乱、過激派のテロ、なんとむなし世の中だろうと驚嘆します。我々は、大学へ入学して今まで何をしてきたか、考えて見るとなにもしていません。大学の授業に失望し暇な自由時間を、マージャン、パチンコ、酒などに費やしている有様です。主体性をなくし、目的を失った人間が、大学ではゴロゴロいます。貴重なこの大学生活四年間を、この様に勝手気ままに生きて、果してよいものだろうか。このように個人主義が過度に発達した今こそ、心情を豊かにする宗教が必要なのです。現在の社会を変えらるには、外的な暴力革命ではなく、より内的な精神革命しかありえません。外的環境が、変革されよくなっても、結局は、心の問題なのです。人間の内なる精神改造によってしか、ユートピアは建設され得ないので。つまり宗教が必要なのです。従来のように

な肉の欲望を断つようなものでなく、良心の欲望とも調和する新しい真理が必要なのです。自分より、まず他人の幸福を願う、この様な愛の精神が必要なのだと思感する次第であります。自己中心主義は、必ず滅びます。人間は孤独ですけれども、結局絶對一人では生きてはいけませんから。

最後に、みなさんがなにげなく歌っている、商神にしても、神の存在を認めています。意味をよくかみしめて読んでください。商神彩なす翹をあげて、靈杖遙に東を指せば、靈しき果実は雲間を漏りて、秋津島根に落つとぞ見えし、所はここぞ菊水かおる深河原の近きほとりに、かく伝わりし天のさとしも、人はさとりて幾年か経ぬ

現在まで、我々は神はいるともいないともなんとも教えられませんでした。しかし、我々は神はいると信じていたのです。でも、神はいるという証明は何ひとつありません。

雑記

P 27 有本智恵

高校三年間、あんなに苦しめられたはずの水泳、大学でまた水泳をやるうとはどんなことがあるかと絶対にないノと思っていたのに、いつの間にか再びそのどろ沼に足を突っ込んでしまった。

入試発表後、浜西さんから勧誘された時には、もうすでに乗り気もいところ。即、返事をしてしまった。週に二回も顔を出したからマル。それに練習量もメチャクチャ少ないというちまたの噂に99%動かされて入部。

最初部室を見に行き、中からジャラジャラという変な音がしてきたのにはビックリノのぞいて、四角い机を囲んで四人の先輩達が怪しく手を動かしてらっしゃるのを見て、またまたビックリノ何というクラブなのだろう——。長田高の出身であることを告げた時の皆様方の反応は、今でも私の脳裏にはっきり刻みつけられている。

入部したのは良いけれど、四年間、雨の日も嵐の日も共に喜びも悲しみも分か合って歩いて行くはずの仲間がいない。

何とさびしいノ 初めのうちは、「暑くなる頃にはきくと水が恋しくなって一年も集まるにちがいない。」と固く信じて疑わなかったのに、日がたつにつれ、次第にその期待もむなしく消え、やっと女子一人入部、男子が一人籍を置いているという状態。あー、来年新一年生が入って来たら、女子二人片隅でいじけていなくちゃならないかもしれません。つらいことです。だから来年私達は、新一年生ではなく、新二年生を勧誘しなくてはならないのですノ

田淵 耕君について

経営学部24回生の田淵耕君は、去る三月神戸製鋼健保プールにおいて、水泳指導中、不測の事故により、神鋼病院にて入院加療中でしたが、たくましい若さと、懸命な治療の甲斐あって、昨今は、外出も可能な状態まで快復されました。一日も早く、全快なさることを心からお祈りしています。

部員紹介

他 己 紹 介

粟野正子

スイマーには珍らしく、色っぽい女性である。(注)女らしいのではない)彼女の色っぽさは、あの独特の腰の動かし方にあると思われる。彼女の腰を見ていると、男性ならずとも妙な気分になってくるのである。また、今年の彼女の成長ぶりは、大変なものがある。スイマーとしても、雀士としても。まだまだ、これからの期待できそうである。勝ったら、また、おごってね。(高木著)

高木史子

通称「ファミ」。常人の及びもつかぬ言動で日頃周囲を圧倒し、奇人、変人、変態の名をほしいままにする水泳部のマスコットの存在。しかし単なるマスコットではなく、個人メドレーを専門とし、後輩の有本チェとともに、練習中時には男子に脅威を与えるほどの実力をもつ。たくましい体つきにひきかえ、その愛らしい顔立ちゆえ、小学生とまちがえられることもしばしば。

丸末氏の良き雀友（良きカモ）であり、マージャンの最中にもっとも端的に喜怒哀楽を表現する。負けている時には普段からは想像もできないほどの真剣さを見せる。

好物はチョコレートパフ。そのためなら必ずベストを出す。またお酒に關しても水泳部代々語り継がれるだろうエピソードを持ってゐる。

（栗野著）

後藤信人

黒のスーツにサングラスなどをかけて街を歩けば道行く人も避けて通るといふほどの外見的にはやくざっぽいヤツ。

しかし、彼は、なかなかしんががあり、やさしさもそなえている。現在、二つのクラブに所屬しているが、ぼくはどちらかといへば同じ仲間として、水泳をつづけてほしい。とにかく彼は個性があるので、見習う所が多い。といつても、彼の毎日の日課といふか稼ぎといふか、〇〇〇〇をまねたら、それこそ身の破滅である。そういうことは彼にまかせて、ま、これからもよき友達として又、クラブにもかかせない人材であつてほしい。

（酒井著）

酒井正人

今、私は故郷沼津に向かう新幹線に一人淋しく乗っている。我々水泳部員に与えられたわずかな夏休暇を、ゆっくり里で過ごそうと思ひ。しかし、二―三日前までは、私の隣席にこれから書こ

うと思う主人公の酒井君が座っているはずであつた。多少裏切られた気持ちもあるが、今、彼が母校水泳部の後輩にハッパをかけていると思えばがまんもできる。

さて彼の水泳に対する氣迫には、一目おくものがある。全部員が納得するところであらう。そしてもう一つ、これは一目おくといふより、先輩諸氏にとっては、恐怖を抱かせる氣迫がある。そこに先輩がいたら絶対におごらせることができるという彼獨特の自信である。その為、私共、内氣？な者ばかりそろつた同輩としても彼と居合わせたいというだけでかなりの得をしたこともしばしばである。酒井君の人づきの良さ、悪くいえば慣れ慣れしさが、可能にしていることなのかも知れない。

又、彼は欠して世に言う生真面目ではないが、はめをはずさない長所を持っている。徹マンのメンツにはほとんどはいらす、パチンコや女の方面にかけてもそうである。

私は、この紙上を借りて、彼に感謝せねばならぬことがある。二年になつてのシーズン初め「オレは、水泳人としての自信を失つた。生活も乱れ大学ちゅうもんがわからなくなった。クラブをやめようかとも考えている。」と彼に電話で弱音を吐いたことがあつた。このときの酒井先生は、いつもの電話の応答でみせる、ぶっきらぼうな話し方ではなく、親味になつて私を勇気づけ、私の弱さにムチ打ってくれたのである。とにかく彼は、我が神大水泳部の中で最も期待のもてる人材であることは間違いない。（後藤著）

塩浜英二

私は、一回生の時から何か運動部に入って体を鍛えたいと思つていました。平石君とは同じ学部学科で同じクラスであったので、平石に勧誘されたとき、一度水泳部に入ってがんばってみようと思ひ入りました。そして水泳部に入っていろいろな事を学びました。まず第一にクロールの泳ぎ方。最初は自己流の泳ぎをし、いくらはやく、手をまわしても、足をバタバタしても、なかなか進まなかったのがいろいろ教えられて、なんとかいまでは進めるようになりしました。そして平泳ぎバック、バックと次から次と教えられました。私は、今、つくづく水泳部に入ってよかったと思ひます。文化クラブにはない、先輩との、そして同僚との体と体とのつながりを感じます。

最後に塩浜君の事を書きます。私は、水泳をやつてなかつたけれど、彼はやつていました。だから、私は、クロールやバックなどをいろいろと彼から学びました。彼は親切に教えてくれました。持つべきものは友でしょうか。大変うれしかったです。そして彼は授業のない日は、一生懸命練習をしています。私は時々、彼の姿を見て、自分が恥しくなります。もっともっと自分に強くなりたいといけなと思います。

(平野著)

平野照雄様に愛をこめて

今年が新一年生が少なく二年生の新入生がたくさん入部した。

平野照雄氏もそのうちの一人である。彼は、淡路島のびわのよくとれる上灘の出身で拙者もびわをたくさんごちそうになった。

現在クロールを泳いでいるが、初心者に似合わず短期間でかなり速くなっている。これからもまだまだ伸びるであらう。

ある時は、ステテコに腹巻き姿のオッサン、ある時は、カブを乗り回す八百屋の配達人、ある時は好き者の雀士、またある時は上灘の青年団長。千の顔をもつベビーフェイスの彼はきょうも日夜頑張っているのだった！

(塩浜著)

平石君に関する所見

平石という人間は、だいたいいかにサボリである。練習は、もちろん時には、試合までもサボル。そのせいもあってか、この一年間の彼のスタイルの変わりようは大変なものである。あの腹の中にはいったい何が、つまっているのだろうか。人間としては、いい奴だし、水泳能力もあると思う。これで練習さえガンバレばきっと一流のスイマーになれるだろう。

なあ、平石よ。練習をちゃんとして、栄光につつまれるのと、サボつて第二の中西氏のようなスタイルになると、どちらを選ぶ？君の活躍に期待しつつ、私は去ります。ガンバつて下さい。

(大林著)

Individual Medley

200 m

1. 鈴木俊彦 2-44-8(S.43)
2. 佐敷定雄 2-45-6(S.48)
3. 佐藤弘之 2-46-8(S.48)
4. 木村多加緒 2-48-6(S.43)
5. 藤森一男 2-50-0(S.47)
6. 丸末一之 2-47-5(S.50)
7. 熊岡禎二 2-51-3(S.43)
8. 大橋進 2-52-2(S.44)
9. 小越信昭 2-53-3(S.38)
10. 平石康 2-53-4(S.50)

2 継

1. 佐藤・大林・中西・丸末 1-57-4(S.49)
2. 1-58-4(S.27)
3. 1-59-2(S.6)
4. 1-59-2(S.14)
5. 佐藤・丸末・佐敷・中西 1-59-4(S.48)

8 継

1. 中西・丸末・天野・佐敷 10-05-2(S.48)
2. 丸末・中西・天野・大林 10-11-8(S.49)
3. 大林・佐藤・中西・丸末 10-08-6(S.50)
4. 大林・伊藤・中西・丸末 10-10-2(S.50)

400 m

1. 木村多加緒 5-58-2(S.43)
2. 鈴木俊彦 6-11-8(S.41)
3. 佐藤弘之 6-15-4(S.48)
4. 平石康 6-20-0(S.50)
5. 沢内孝夫 6-20-1(S.44)
6. 熊岡禎二 6-23-5(S.44)
7. 岩切博 6-24-2(S.45)
8. 丸末一之 6-25-0(S.49)
9. 玉置明 6-25-2(S.43)
10. 佐敷定雄 6-31-2(S.45)

4 継

1. 以西・五置・熊岡・木村 4-32-2(S.43)
2. 中西・藤森・佐藤・佐敷 4-33-3(S.48)
3. 小林・岩切・大橋・佐敷 4-39-0(S.45)
4. 小林・藤井・大橋・佐敷 4-46-8(S.45)
5. 丸末・長谷川・天野・佐敷 4-35-5(S.48)

M. Relay

1. 木村・鈴木・大橋・以西 4-48-5(S.43)
2. 玉木・菊田・大橋・山本 4-52-6(S.44)
3. 木村・鈴木・阿部・宮部 4-52-9(S.41)
4. 木村・鈴木・熊岡・以西 4-53-8(S.43)
5. 瓜生・平石・佐藤・中西 4-55-3(S.49)

Breast stroke

50 m

1. 鈴木俊彦 34-1(S.43)
2. 平石康 35-4(S.49)
3. 菊田修三 36-2(S.44)
4. 栗原稔 36-4(S.42)
5. 佐藤弘之 37-0(S.48)
6. 渡辺義治 38-0(S.47)
7. 熊岡楨二 38-2(S.42)
8. 岩切博 38-5(S.43)
9. 木内資雄 39-9(S.43)
10. 坂元正広 38-9(S.43)

100 m

1. 鈴木俊彦 1-17-0(S.40)
2. 平石康 1-17-6(S.49)
3. 菊田修三 1-19-0(S.44)
4. 佐藤弘之 1-22-0(S.48)
5. 栗原稔 1-22-8(S.40)
6. 渡辺義治 1-22-8(S.47)
7. 木内資雄 1-23-8(S.43)
8. 坂元正広 1-23-6(S.41)
9. 熊岡楨二 1-24-4(S.43)
10. 松山玄彦 1-23-2(S.50)

Back

50 m

1. 木村多加緒 33-7(S.44)
2. 瓜生誠二郎 36-6(S.47)
3. 玉木喜代明 37-2(S.44)
4. 福田大武 37-3(S.42)
5. 印南修三 37-4(S.47)
6. 玉置明 38-7(S.42)
7. 酒井正人 36-8(S.50)
8. 天野孝司 40-0(S.48)
9. 佐藤弘之 38-8(S.48)

200 m

1. 鈴木俊彦 2-47-2(S.40)
2. 平石康 2-49-8(S.50)
3. 菊田修三 2-55-6(S.44)
4. 岩切博 2-59-9(S.45)
5. 阿部 3-00-1(S.39)
6. 大崎 3-00-2(S.39)
7. 安茂弘 3-01-9(S.38)
8. 村岡英樹 3-02-1(S.34)
9. 栗原稔 3-02-5(S.44)
10. 佐藤弘之 3-03-0(S.48)

Back

100 m

1. 田端 五郎 1-13-0(S.27)
2. 木村 多加緒 1-13-0(S.43)
3. 玉木 喜代明 1-14-6(S.44)
4. 岡村 司 1-16-0(S.33)
5. 部坂 克夫 1-17-2(S.12)
6. 印南 修三 1-18-0(S.47)
7. 瓜生 誠二郎 1-18-0(S.47)
8. 井上 隆史 1-19-0(S.36)
9. 木下 1-20-0(S.44)
10. 酒井 正人 1-16-8(S.50)

200 m

1. 木村 多加緒 2-37-0(S.43)
2. 玉木 喜代明 2-44-3(S.44)
3. 瓜生 誠二郎 2-49-4(S.47)
4. 印南 修三 2-50-0(S.47)
5. 福田 大武 2-53-8(S.44)
6. 木木 2-56-3(S.44)
7. 佐藤 弘之 2-56-8(S.48)
8. 酒井 正人 2-46-7(S.50)
9. 佐敷 定雄 3-11-4(S.46)
10. 榎西 勝 3-11-9(S.47)

Butterfly

50 m

1. 佐敷 定雄 30-8(S.47)
2. 木村 多加緒 31-1(S.42)
3. 大橋 進 31-2(S.44)
4. 熊岡 禎二 32-6(S.42)
5. 鈴木 俊彦 33-0(S.43)
6. 菱田 徹 33-2(S.42)
7. 沢内 孝夫 33-5(S.42)
8. 藤井 元洋 33-6(S.47)
9. 丸末 一之 34-0(S.49)
10. 玉置 明 34-2(S.42)
11. 土田 敏彦 39-2(S.50)

100 m

1. 佐敷 定雄 1-06-0(S.47)
2. 大橋 進 1-09-1(S.44)
3. 佐藤 弘之 1-13-7(S.49)
4. 熊岡 禎二 1-16-1(S.44)
5. 岩切 博 1-16-7(S.44)
6. 藤森 一男 1-16-8(S.47)
7. 末光 英和 1-18-0(S.43)
8. 日野 康 1-18-4(S.39)
9. 木村 多加緒 1-20-2(S.42)
10. 上田 敏彦 1-16-4(S.50)

Free style

50 m

1. 宮部 高博 28-2(S.40)
2. 野村 弘 28-4(S. 8)
2. 木村 多加緒 28-4(S.44)
4. 大橋 進 28-8(S.45)
4. 佐敷 定雄 28-8(S.47)
4. 中西 康之 28-8(S.49)
7. 大林 良和 29-0(S.49)
8. 沢内 孝夫 29-1(S.42)
8. 紫垣 和男 29-1(S.47)
10. 佐藤 一之 29-2(S.48)

100 m

1. 浜川 広海 1-02-2(S.26)
2. 佐敷 定雄 1-03-1(S.47)
3. 中西 康之 1-04-5(S.49)
4. 中村 市治 1-04-6(S.14)
5. 木村 多加緒 1-04-6(S.43)
6. 丸山 昱也 1-05-4(S.39)
7. 天野 孝司 1-05-4(S.49)
8. 片平 一 1-05-6(S.29)
9. 以西 吉一 1-05-6(S.43)
- 丸末 一之 1-04-9(S.50)

200 m

1. 佐敷 定雄 2-34-5(S.48)
2. 阿部 洋三 2-48-0(S.41)
3. 大橋 進 2-50-6(S.45)
4. 菱田 徹 2-51-6(S.44)
5. 藤森 一男 2-53-1(S.49)
6. 安部 一 2-56-1(S.38)
7. 佐藤 弘之 2-57-2(S.49)
8. 武政 英幸 2-59-5(S.38)
9. 岩切 博 3-02-4(S.45)
10. 酒井 孝栄 3-02-6(S.34)

200 m

1. 佐敷 定雄 2-23-0(S.48)
2. 木村 多加緒 2-24-0(S.43)
3. 中西 康之 2-25-0(S.49)
4. 大林 良和 2-25-2(S.49)
5. 玉置 明 2-27-4(S.44)
6. 丸末 一之 2-28-7(S.50)
7. 大橋 進 2-30-8(S.44)
8. 天野 孝司 2-31-6(S.47)
9. 長谷川 健 2-31-8(S.47)
- 紫垣 和男 2-31-8(S.47)
- 佐藤 一之 2-31-4(S.48)

400m

1. 大林良和 5-08-9(S.49)
2. 玉置明 5-19-6(S.43)
3. 浅間啓介 5-22-8(S.36)
4. 佐敷定雄 5-24-2(S.48)
5. 天野孝司 5-25-8(S.48)
6. 中西康之 5-21-5(S.48)
7. 石原紘三 5-32-5(S.38)
8. 丸末一之 5-30-0(S.50)
9. 細田忠雄 5-33-4(S.31)
10. 沢内孝夫 5-35-7(S.42)

800m

1. 大林良和 10-48-4(S.49)
2. 木村多加緒 11-04-1(S.42)
3. 玉置明 11-05-2(S.44)
4. 浅間啓介 11-12-2(S.36)
5. 高岡保宏 11-20-1(S.34)
6. 佐敷定雄 11-20-4(S.48)
7. 中西康之 11-24-0(S.48)
8. 天野孝司 11-27-2(S.47)
9. 沢内孝夫 11-28-7(S.42)
10. 大橋進 11-34-9(S.43)

昭和五十年度
凌泳総会議事録

会則の一部改正と新役員構成

昭和五十年度凌泳総会は、五月十七日（土曜）神戸製鋼健保プールに於て

- 一、水泳部新入部員紹介
- 二、昭和四十九年度一般経過報告
- 三、昭和四十九年度決算報告
- 四、昭和五十年年度予算審案審議
- 五、昭和五十年年度行事予定
- 六、会則の改訂について
- 七、役員の改選について

前回の総会にて本会き則を別記の通り改正する事を現案し承認されました。

それに伴ない本会役員に若干の移動がありましたので御紹介致します。
(敬称略)

会長	古林 喜楽	留任
副会長	小山 賢之助	留任
監事	山田 常雄	新任
	村上 秀道	新任
	他若干名予定	
幹事長	石井 義章	新任
幹事	萩原 武	留任
同	玉置 明	留任
同(会誌担当)	堤 莊祐	留任
同(会計担当)	長谷川 健	新任
支部幹事	移動なし	

(以上幹事記)

会則の一部変更について

本会の運営をより親睦的なものにするため役員構成を変更すると共に総会での議決権を正会員に限定する。

〔変更の主旨〕

昭和48年度総会で岡本幹事長が辞任されて後、幹事長が空席のままとなっているが、次期幹事長の人選検討の過程で凌泳会の運営そのものについても再検討した結果、適当な年代を置いて役員を置くことが、相互親睦、並びに各種業事における参加意欲、更には業事参加に対するより高い満足感を得て頂けるものと判断し、役員構成を次の様に強化したいと考える。

会 長	1 名
副 会 長	2 名（関東在住、関西在住各1名）
監 事	若干名（新設）
幹 事 長	1 名
本 部 幹 事	若干名
支 部 幹 事	若干名

尚、会計監事（2名以内）については新設する監事（若干名）にてこの任務を行なうため廃止したい。

第19条、20条に役員会が規定されているが、第16条にて同様の主旨が明記されているので第19条、20条は削除する。また第23条で総会における議決権は出席会員に等しく与えられているが、出席会員は通常在学会員が過半数を占めるため、正会員の意向が反映され難いのが実情である。凌泳会の設立主旨から考えて、これを正会員に限定したい。

以上の主旨に基き以下の通り条文を改訂する。

旧 条 文	新 条 文
第11条（役員）本会には左記の役員を置く。	第11条（役員）本会には左記の役員を置く。
会 長 1 名	会 長 1 名
副 会 長 1 名	副 会 長 2 名
幹 事 長 1 名	監 事 若干名
本 部 幹 事 若干名	幹 事 長 1 名
支 部 幹 事 若干名	本 部 幹 事 若干名
会 計 幹 事 2 名 以 内	支 部 幹 事 若干名

旧 条 文	新 条 文
<p>第16条 (幹事長及び本部幹事) 幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し、総括的会務の執行に当る。</p>	<p>第16条 (監事) 監事は本会の会務及び会計を監査する。</p>
<p>第17条 (支部幹事) 支部幹事は各支部の事務を執行すると共に本部の諸活動に協力する。</p>	<p>第17条 (幹事長及び本部幹事) 旧第16条に同じ</p>
<p>第18条 (会計監事) 会計監事は会計の監査に当る。</p>	<p>第18条 (支部幹事) 旧第17条に同じ</p>
<p>第19条 (役員会) 会長、副会長、幹事長、本部幹事をもって役員会を組織し役員の決議に従い会務の運営に当る。</p> <p style="text-align: center;"><中 略></p>	<p>第19条 (招集) (旧第21条に同じ 旧第19条、同20条を削除するため、本条より第4章総会)</p> <p>第20条 (時期) 旧第22条に同じ</p>
<p>第21条 (招集) 総会は少くとも2週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長、これを招集する。</p>	<p>第21条 (議決) 総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。但し書きの項、旧第23条の但し書に同じ。</p>
<p>第22条 (時期) 総会は毎年5月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じ招集する</p>	<p>第22条 (経理) 旧第24条に同じ。</p>
<p>第23条 (議決) 総会の決議は出席会員の過半数をもって決する。但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。</p>	<p>第23条 (決算) 旧第25条に同じ。</p>
<p>第24条 (経理)) 省 略</p>	<p>第24条 (期間) 旧第26条に同じ。</p>

旧 条 文	新 条 文
第26条 (期間) 第27条 本会則は昭和39年5月16日より発効する。	第25条 本会則は昭和50年5月17日より発効する。

議案・会則の一部変更を提案したが、これに伴ない、役員を次の通り改選したい。

会 長	古 林 喜 楽 氏	再 選	(高19)
副 会 長	小 山 賢之助 氏 (関西在住)	再 選	(学 1)
	山 田 常 雄 氏 (関西在住)	新 任	(学 1)
監 事	村 上 秀 造 氏	新 任	(学 7)
	他若干名		
幹 事 長	石 井 義 章 氏	新 任	(学22)
本 部 幹 事	萩 原 武	再 選	(新10)
	玉 置 明	再 選	(新18)
	堤 庄 祐 (凌泳編集担当)	再 選	(新12)
	長谷川 健	新 任	(新22)
支 部 幹 事	全 員 再 選		

昭和49年度行事

○ 凌泳会

収入

凌泳会々費	291,200円
寄付金	37,500
<hr/>	
	328,700

支出

「凌泳」発行費	61,700円
会合費	25,596
通信費	30,860
交通費	24,570
水泳部援助	165,974
全国凌泳会基金積立	20,000
<hr/>	
	328,700

○ 全国凌泳会基金

収入

昭和48年度積立繰越	400,000円
昭和49年度積立金	20,000
<hr/>	
	60,000

支出

なし	0
次年度繰越	60,000円
<hr/>	
	60,000

○ 水泳部

収入

前年度繰越	1,373円
部員アルバイト	102,600
育友会援助	39,500
凌泳会援助	165,974
部員負担	414,400
合宿費	364,400
会合費	50,000
<hr/>	
	723,847

支出

水連登録費	15,000円
合宿費	425,544
会合費	139,211
試合練習費	17,030
交通通信費	10,395
設備燃料費	73,050
衛生費	29,410
雑費	8,061
次年度繰越	6,146
<hr/>	
	723,847

昭和50年度予算

○ 凌泳会

収入

凌泳会々費	300,000
寄付金	40,000
	340,000

支出

「凌泳」発行費	60,000
会合費	25,000
通信費	35,000
交通費	25,000
水泳部援助	175,000
全国凌泳会基金積立	20,000
	340,000

○ 全国凌泳会基金

収入

昭和49年度繰越	60,000
昭和50年度積立金	20,000
	80,000

支出

○ 水泳部

収入

昭和49年度繰越	6,146
部員アルバイト	70,000
育友会援助	40,000
凌泳会援助	175,000
部員負担	500,000
	791,146

支出

水連登録費	30,000
合宿費	460,000
会合費	150,000
試合・練習費	20,000
交通・通信費	10,000
設備・燃料費	80,000
衛生費	30,000
雑費	11,146
	791,146

昭和50年度行事

4/4 ~ 4/8	春季合宿(和歌山県 広川温泉)				
5/17(土)	凌泳会総会				
5/31(土)	新入生歓迎コンパ				
6/7(土)	京阪神三大学 (大阪プール)				
6/15(日)	四大学 (神大プール)				
6/22(日)	関西ポロリーグ (市大プール)				
6/25(水)~6/30(月)	合 宿				
7/6	兵庫インカレ (商船大プール)				
7/11(金)12(土)	関西インカレ (大阪プール)				
7/19(土)20(日)	関西国公立 (府大プール)				
7/27(日)	<table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td>市大戦(神大プール)</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td>旧三商大戦(市大プール)</td> </tr> </table>	}	市大戦(神大プール)	}	旧三商大戦(市大プール)
}		市大戦(神大プール)			
}	旧三商大戦(市大プール)				
8/3(日)					
8/30(土)31(日)	近 国 体 (京大プール)				
9/7(日)	関西ポロリーグジュニア戦(市大プール)				

凌 泳 会 会 則

第一章 總 則

第一条(名稱) 本会は凌泳会と称する。

第二条(事務所) 本会は事務所を神戸市灘区六甲台町・神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三条(目的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四条(事業) 本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の爲の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五条(会則の改廃) 本会則の制定及び変更は總會の決議によって行なう。

第二章 会 員

第六条(会員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員及び在学会員とする。

第七条(正会員) 正会員とは次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学
以上の諸学校に於て、在学中水泳部に所属したもの。

第八条(特別会員) 特別会員とは次のものを云う。

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部长であつた者及び現在ある者。

第九条（在学会員）

二、その他、總會の決議によって推薦した者。
在学会員とは次のものを云う。
現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十条（会費）

正会員は会費として年額二、五〇〇円を当会へ納入する。

第三章 役員

第十一条（役員）

本会には左記の役員を置く。

- 会長 一名
- 副会長 一名
- 幹事長 一名
- 本部幹事 若干名
- 支部幹事 若干名
- 会計幹事 二名以内

第十二条（改選）

役員は改選は總會の決議によって行なう。

第十三条（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四条（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五条（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六条（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総合的会務の執行に当る。

第十七条（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第十八条（会計幹事）

会計幹事は会計の監査に当る。

第十九条（役員会）

会長、幹事長、本部幹事を以って、役員会を組織し、役員は決議に従い会務の運営に当る。

第二十条（招集）

役員会は会長これを招集する。

第四章 総 会

第一千一条（招 集）

第一千二条（時 期）

第一千三条（議 決）

総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って、会長これを招集する。
総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。
総会の決議は出席会員の過半数を以って決する。

但し、当該議事につき、書面を以ってあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。

第五章 会 計

第一千四条（経 理）

第一千五条（決 算）

第一千六条（期 間）

本会の経理は、会費、寄附金及びその収入によって賄う。

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。

本会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする。

第六章 雑 則

第一千七条

本会則は昭和三十九年五月十六日より発効する。

渡
 泳
 会
 々
 員
 名
 簿

物故會員名簿

川	阪	東	田	茂	中	大	高	三	繁	鈴	山	山	神	中	岡	野	加	小	藤
西	本	光	川	野	村	谷	田	輪	益	木	下	村	原	村	本	田	納	原	井
武	豐	武	亮		親	壽	喜	繁	不	虎		零	聖	幸	曾		房	正	太
雄	一	三	一	猛	毅	輔	三	郎	郎	雄	藤	馨	一	一	一	一	茂	穂	郎

高特

26 22 22 22 21 21 20 20 20 19 19 18 17 17 17 17 16 16 15

今	伊	前	池	山	稻	柏	井	恩	部	新	松	和	栄	片	小	鍵	太
井	藤	田	田	口	垣	木	上	地	坂	原	木	泉	口	山	西	本	田
一		礼	勲	八		慶	正	正	克	拓		真	昌	四	熊	芳	
彰	郎	之	治	郎		三	幸	悟	夫	郎	勇	弘	二	郎	雄	雄	清

新学

学高

8 17 14 13 12 11 11 11 10 10 9 8 7 6 5 3 2 26

編集後記

只今、冬の真っ最中。不況、値上がり、公務員スト、ゲリラ。もう、大変。目まぐるしく移りかわる社会。変わりよりのないほど。歯車がありはずもないじゃない？でも、所謂二十才の学生。のされ言。甘いと言われれば言葉もないけど……。仲良くやっていきたいね。クラブでの雰囲気大切にしていきたいね。四年生の方々、本当に御苦労様でした。社会に出ての御活躍、楽しみにしております。

前号で御約束致しました神大記録が、資料の残っている範囲でできあがりました。何かお気付の点は、お知らせ下さい。

最後になりましたが、本号の発行の遅れましたことを、ここにおわび致します。

横上明夫